四国八十八箇所お遍路報告書

写真・文　後藤隆徳

年月日　　２０１４年月０４月０４日（金）～１０日（木）

回　数　　第八回・四国お遍路（通算歩行日数＝４０日～４４日）

参加者　　後藤隆徳、高岡八千代、土屋弥生、陶山節子、山口五月、渡辺典子、鈴木新平、田内保子、陶山泰信（ランニング）＝８名＋１名

遍路寺

●六十六番札所　雲辺寺（うんぺんじ）　徳島県三好市池田町白地ノロウチ７６３

ご本尊＝千手観世音菩薩　　おん　ばざらたらま　きりく　そわか

メモ＝山麓の雲辺寺口から寺への５・５㌔の登りは「へんろころがし」といわれる急勾配の坂道で横峰寺を上廻る難所。しかし、自動車道が開通し、中型車までは標高 1000㍍の寺までゆける。

大師が１６歳のとき、寺の建築材を求めて登山したところ、深遠な霊山の趣に心うたれて堂宇を建立したのがこの寺のはじまりで、大同２年（８０７）嵯峨天皇の勅を奉じてふたたび登山し、ご本尊を彫刻して仏舎利と毘盧遮那法印（仏法石）を山中に納め、霊場に定めた。その後四国高野といわれ、阿波、土佐、伊予、讃岐の各坊があって学僧が集まり、学問道場として盛んであった。鎌倉時代には七堂伽藍が整備され、阿波、伊予、讃岐の関所でもあった。また、江戸時代になってからは蜂須賀家の祈願所にもなり、手厚い庇護をうけたが、現在は往時の面影はみられない。寺域はまさに雲上の世界。周囲の山々に霧がかかり雲の中の霊場。

●六十七番札所　大興寺（だいこうじ・小松尾寺）　香川県三豊市山本町辻４２０９

ご本尊＝薬師如来　　おん　ころころ　せんだり　まとうぎ　そわか

メモ＝縁起によれば、弘仁１３年（８２２）嵯峨天皇の勅命で弘法大師が熊野三所権現鏡護の霊場として開創し、ご本尊の薬師如来を彫刻して安置された。後に真言、天台の二宗によって管理され、真言が二十四坊、天台は十二坊あって本堂の左右に真言、天台の大師堂があった。その後天正の兵火で本堂を残して他の堂塔を焼失し、現存の建物は慶長年間に再建されたもの。

雲辺寺から約１２㌔下って、仁王門より、大師お手植えの楠と榧の老樹を見ながら石段を登ると正面の本堂へ達する。かつて東大寺の末寺に属し台密二教の道場として栄えたがその面影はない。しかし現存の諸堂はいずれも修築し整備されている。仁王門は八百屋お七の父か恋人の吉三のいずれかが、お七の菩提を弔うために遍路となり、その途中に寄進したとも伝えられる。寺の名は大興寺だが、地元の人や遍路は山号にちなんで小松尾寺と親しみよんでいる。

●六十八番札所　神恵院（じんねいん）　香川県観音寺市八幡町１－２－７

ご本尊＝阿弥陀如来　　おん　ありみた　ていぜい　から　うん

メモ＝観音寺市へ入り、財田川を渡ると琴弾山（５８・６㍍）の麓。それから中腹へと石段がつづいている。神恵院と次の六十九番観音寺は同一境内にある。文武天皇のころ、法相宗の日証上人が山頂に草庵を結んで修行していたとき、海の彼方に神船が浮んで琴の音が聞こえ、宇佐八幡のおつげがあり、その神船と琴を引き上げて山頂にまつった。この神船は神功皇后ゆかりのある船なので皇后の像も合祀し、大宝３年（７０３）八幡の本地仏である阿弥陀如来の尊像を安置した。

養老６年（７２２）には行基菩薩が巡錫し、後に弘法大師もこの地に巡錫して阿弥陀如来の尊像を描いて本尊とし六十八番の霊場に定め、寺号を琴弾山神恵院と名づけた。明治の神仏分離で八幡宮に安置の阿弥陀如来は観音寺の境内に移遷され、琴弾八幡宮と神恵院に分離し、それぞれ独立して神恵院は観音寺と同居のかたちをとり、本堂、大師堂は一段高いところに移建した。

●六十九番札所　観音寺（かんのんじ）　　香川県観音寺市八幡町１－２－７

ご本尊＝聖観世音菩薩　　おん　あろりきゃ　そわか

メモ＝寺伝によれば、大師は神恵院を霊場に定めた時、神功皇后は観世音の生まれかわりとして聖観世音菩薩の尊像を刻まれ、山の中腹に七宝山観音寺を創建して尊像を安置し、八幡宮の別当寺として六十九番の霊場に定めた。仁王門を入った右に本堂（金堂）がある。文明４年から大永５年（１４７２～１５２５）の間に大修復し、昭和３４年にも解体修理して、重要文化財に指定されている。

観音寺の伽藍配置は奈良興福寺の東西金堂、中本堂の制にならっており、中本堂には聖観世音、西金堂には薬師如来と十二神像、東金堂には弥勒菩薩を安置していた。現在は西金堂に神恵院があり、薬師如来は本堂に奉安されている。大師堂は神恵院への石段の登り口にある愛染堂に隣接し、

庫裡では　一山二ヵ寺分の納経朱印を扱っている。ところで本尊厨子の裏板には、貞和３年（１３４７）常州下妻の僧の落書があり、このころ下妻（茨城）から四国 遍路に訪れていることが知られる。

●七十番札所　本山寺（もとやまじ）　香川県三豊市豊中町本山甲１４４５

ご本尊＝馬頭観世音菩薩　おん　あみりとうどはんば うんぱった そわか

メモ＝琴弾山をあとに東北へ向うと前方に五重塔の塔身がくっきりと浮かぶ。大正２年の再建だが、古くは大同四年に弘法大師が建立し、天暦２年（９４８）に修理したが、その後上の四層が破損したため下の一重のみを修理し塔堂として残っている。本堂は大同２年（８０７）平城天皇の勅願により弘法大が一夜のうちに建立したと伝えられる。この用材は徳島県井ノ内村の山中より伐採し、香川県財田村で組立ててこの地へ運んだという。ご本尊の馬頭観世音、脇士の阿弥陀と薬師如来はこの時に彫刻して安置された。本堂は鎌倉時代に大修復され、昭和３０年に解体修理し国宝になっ

ている。美しい仁王門（八脚門）は久安３年（１１４７）の建立で重文。伝説によれば、天正のころ、長曽我部元親は寺へ進駐しようとしたが住職が拒んだため切り殺してしまう。やがて内陣厨子が開き、脇士の阿弥陀如来のおからだから血が出ており、驚いた武士は境内から退き寺は戦禍から免れたという。

●七十一番札所　弥谷寺（いやだにじ）　香川県三豊市三野町大見乙７０

ご本尊＝千手観世音菩薩　　おん　ばざらたらま　きりく　そわか

メモ＝寺は標高３８２㍍の弥谷山の中腹にある。３つの峰からなっている故、三朶の峰といわれ、昔から死霊のゆく山と信じられている。山麓の坂道を登ってゆくと、仁王門の手前に名物のあめ湯とトコロテンを売る俳句茶屋がある。門を入ってからは２６２段の石段。元禄年間に住僧覚林が造顕した金剛拳菩薩が奉安されており、さらに段を登れば、大師堂、鐘楼堂、岩窟の護摩堂、岩壁に刻まれた弥陀三尊などがあり、本堂には千手観世音がご本尊として奉安されている。寺は行基菩薩の開創。

聖武天皇が堂塔を建立し、後に、弘法大師が７歳のときこの山で苦行し、大同２年（８０７）再び登山して真言密教の秘法を修されている時、五柄の剣を得るとともに蔵王権現のおつげがあり、これに基づき、大師は千手観世音を刻み本尊とした。大師堂につづく奥ノ院は「獅子の岩窟」大師が求聞持の法を修された場所。

●七十二番札所　曼荼羅寺（まんだらじ）　香川県善通寺市吉原町１３８０

ご本尊＝大日如来　　おん　あびらうんけん　ばざら　だとばん

メモ＝寺は弘法大師の先祖である佐伯家の氏寺として推古４年（５９６）創建され、世坂寺と称していたが、弘法大師が留学後、ご本尊の大日如来を勧請し、大同２年、金胎曼荼羅を安置し、唐の青龍寺に模して堂塔を建立し、寺号も我拝師山曼荼羅寺と改めた。本堂から回廊伝いの観音堂には聖観世音が安置されている。桧材一木造りの豊満端厳な尊容で、藤原時代の造顕という。境内には、西行法師の「笠掛桜」と「昼寝石」の遺跡がある。西行法師は諸国を行脚中、この近くに滞在し、寺の境内でしばしば休息し、あるとき同行した旅人が桜の枝に笠をかけ忘れ、それを見て「笠はありその身はいかになりぬらん　あはれはかなきあめが下かな」とよんだという。自然の中に人間性を見出して表現したところにその特徴があるといわれる。

●七十三番札所　出釈迦寺（でしゃかじ）　香川県善通寺市吉原町１０９１

ご本尊＝釈迦如来　　のうまく　さんまんだ　ぼだなん　ばく

メモ＝前方に我拝師山（標高４８１・２㍍）がある。昔は倭斯濃山といったという。伝説によれば、弘法大師が七歳のときこの山に登り、「仏門に入って　多くの人々を救いたい。この願いがかなうなら釈迦如来あらわれたまえ、もし願いがかなわぬなら一命を捨ててこの身を諸仏に供養する」と

いって、断崖絶壁から谷底へ身を投げるのである。この時釈迦如来と天女があらわれて　雲上に抱きとめ「一生成仏」の旨をいわれた。一命を救われ、その願いが成就することを示された大師は、感激して釈迦如来の像を刻み、堂宇を建てて出釈迦寺とし、倭斯濃山を我拝師山に改めたという。曼荼羅寺からだらだら坂を 500 ㍍あまり登ったところに出釈迦寺がある。寺の境内には我拝師山々頂の捨身ヶ嶽の遥拝所があり、ここからは捨身ヶ嶽禅定の建物が仰がれる。山路１・８㌔約四十分の登り。山上の奥ノ院には釈迦如来と不動明王､弘法大師像が安置され身を捨てた行場は 500 ㍍先にある。

●七十四番札所　甲山寺（こうざんじ）　香川県善通寺市弘田町１７６５－１

ご本尊＝薬師如来　　おん　ころころ　せんだり　まとうぎ　そわか

メモ＝弘法大師は幼いころこの附近で遊ばれた。土の仏像や草木の小堂を作ったり、石を重ねて塔にしたり、愛犬をつれて歩かれたりした。近くの仙遊ヶ原地蔵堂は大師のそうした遊び場であったという。善通寺へ向かう道沿いに小高い山がある。山の名を甲山という。寺は山の裏側にあり、山門を入ると正面が本堂、左に大師堂、鐘楼毘沙門天の岩窟、右に護摩堂、庫裡がある。大師が善通寺と曼荼羅寺の間に伽藍を建立しようと、その霊地を探していたら、甲山の麓の岩窟から老翁があらわれ、暗示を受けた。大師は歓喜のあまり、石を割いて毘沙門天の尊像を刻んで岩窟に安置し、供養された。

その後大師は京都におられたが、弘仁１２年（８２１）満濃池築造の別当に任ぜられて当地へ赴任し、薬師如来を刻んで工事の成功を祈願した。その徳を慕う数万の農民によって工事は完了した。そこで堂塔を建立し、薬師如来を本尊として安置したという。

●七十五番札所　善通寺（ぜんつうじ）　香川県善通寺市善通寺町３－３－１

ご本尊＝薬師如来　　おん　ころころ　せんだり　まとうぎ　そわか

メモ＝大師生誕の地・善通寺のシンボル五重塔を前方に見ながら市街へ入ると、左に伽藍といわれる東院があり、約三㌶の境内にご本尊の薬師如来を奉安した金堂、五重塔、釈迦堂など。そして東に赤門、西に中門、南に大門がある。一方、右には誕生院といわれる西院があり、四㌶の境内に仁王門、勅使門、御影堂、産湯井、その他諸堂がある。善通寺派の総本山であるだけに、四国一の規模を誇り、大師ご誕生の地にふさわしい。大師は唐より帰朝後、大同２年（８０７）真言宗弘通の勅許を得て、先祖の氏寺の建立を発願下。父の善通卿は自身の荘田を提供され、六年の歳月をかけて七堂伽藍を完成させた。堂塔は唐の青龍寺を摸してつくられ、寺名は父の名をとって善通寺と名づけられた。そして寺の背後に五峰がそびえていることから、山号を五岳山と称した。御影堂は四棟からなり、礼堂と中殿は大師の父善通卿、奥殿は母玉依御前の館の跡で、現在の奥殿がお大師さ

まの御誕生地と言われている

●七十六番札所　金倉寺（こんぞうじ）　香川県善通寺市金蔵寺町１１６０

ご本尊＝薬師如来　　おん　ころころ　せんだり　まとうぎ　そわか

メモ＝昔から文化の程度の高かったのは、四国では讃岐の那珂郡と多度郡で、この地からすぐれた人物を生みだした。多度郡弘田郷の豪族であった佐伯一門からも、弘法大師をはじめ、知泉、円珍（智証）真雅などの高僧が輩出している。なかでも智証大師は善通寺から４㌔はなれた金倉郷に弘法大師の姪を母として弘仁６年（８１５）に生まれた。

幼少のころから経典を読み、１４歳で叡山に登り、後に唐へ留学し、やがて延暦寺５代座主となり、三井園城寺を賜わって伝法灌頂の道場とした。

●七十七番札所　道隆寺（どうりゅうじ）　香川県仲多度郡多度津町北鴨１－３－３０

ご本尊＝薬師如来　　おん　ころころ　せんだり　まとうぎ　そわか

メモ＝西暦７１２年、この辺りは大桑園であった。中で夜毎怪光を放つ最大の桑の木があり、道隆親王その桑で薬師如来の小象を刻み、草堂を建て安置し、廻向の日々を送る。これが道隆寺の始まりである。子朝祐、意思を継ぎ、折りから唐より帰国した弘法大師に師事、大師自ら薬師如来像を刻み、道隆親王の薬師像を胎内に納め（二体薬師）御本尊とし、朝祐、家財を投じて方６００㍍の寺院を建立する。三代目法光、四代目智証、五代目理源、各大師晋住し、七堂伽藍を完備して密法を弘場し、四国随一宝崩祈願寺となる。

●七十八番札所　郷照寺（ごうしょうじ）　香川県綾歌郡宇多津町１４３５

ご本尊＝阿弥陀如来　　おん　ありみた　ていせい　から　うん

メモ＝宇多津の町へ入ると右手青野山の麓に郷照寺がある。霊亀年間（７１５～１７）行基菩薩によって開創され、仏光山道場寺と名づけられ、ご本尊の阿弥陀如来は行基菩薩の作という。後に弘法大師が留錫して荒廃した伽藍を改築し霊場に定めた。やがて理源大師や道範阿闍梨が寺にとどまり、後に一遍上人が伽藍を再興した。

天授年間より子院七ヵ寺を有して盛んであったが、元亀、天正の兵火で焼失した。その後伽藍は復旧し、文化２年（１８０５）には藩主が病気平癒を祈願し、それが成就したので大書院を建立し、４石の保護料を寄進したという。寛永年間には時宗に改められている。

●七十九番札所　高照院（天皇寺・てんのうじ）　香川県坂出市西庄町１７１３－２

ご本尊＝十一面観世音菩薩　　おん　まか　きゃろにきゃ　そわか

メモ＝宇多津から坂出の市街へ入ると右に金山があり、その麓に日本武尊ゆかりの泉がある。八十八の水とも八十場（矢蘇場の水）ともいわれ、弘法大師がこの泉の附近を巡錫中に霊感を得て、近くの霊木で十一面観音像と阿弥陀如来、愛染明王を刻み、堂宇を建てて安置した。

また、大師は薬師如来を刻んで八十八の泉の水源に安置し、八十八の水を

もって閼伽井とし、秘法を修されたが、山の鎮守金山権現があらわれ、それに舎利を感得したのでこれにちなみ金華山摩尼珠院と号した。これが寺の始まりで、後の保元の戦乱で寺は焼失し、近くの高照院を移し再建したことから高照院とよばれるようになった。

●八十番札所　国分寺（こくぶんじ）　香川県高松市国分寺町国分２０６５

ご本尊＝十一面千手観世音菩薩　　おん　ばざらたらま　きりく　そわか

メモ＝国分の町へ入り国道から左へ折れて仁王門を入ると右に七重塔跡があり、１５個の礎石が残り、いまは石造の七重塔（鎌倉時代）が建っている。この前にある銅鐘（重文）は奈良時代の鋳造。大蛇の伝説や高松城の時鐘の伝説で知られた古鐘である。正面の本堂の前は金堂跡で３３個の礎石がある。橋を渡ると創建当初の講堂跡に建てられた本堂がある。

九間四面の入母屋造り、本瓦葺きで鎌倉中期の建築といわれ天正の兵火にも免れ、堂内にご本尊の千手観世音が奉安されている。縁起によれば、天平１３年（７４１）聖武天皇の勅願によって行基菩薩が開基しご本尊を刻まれた。

●八十一番札所　白峯寺（しろみねじ）　香川県坂出市青海町２６３５

ご本尊＝千手観世音菩薩　　おん　ばざらたらま　きりく　そわか

メモ＝白峯は俗塵から離れた静寂な霊域で五色台（青、赤、白、黒、黄峰）の西にあり、崇徳天皇の御陵があることで知られている。参道途中には弘安と元享の銘の刻まれた崇徳天皇の二基の供養石塔がある。

　高麗門形式の七棟門を入ると、茶堂、御成門、勅使門があって門の中には客殿、庫裡、納経所がある。さらに左へ進むと宝物館や不動堂、宝庫などの建物が並び、正面が勅額門、ここを入れば崇徳天皇の廟所・頓証寺殿である。本堂は勅額門の手前からの石段を登りつめたところにある。

●八十二番札所　根香寺（ねごろじ）　香川県高松市中山町１５０６

ご本尊＝千手観世音菩薩　　おん　ばざらたらま　きりく　そわか

メモ＝弘法大師は入唐前にこの山へ登って草庵を結び、霊場とした。天長９年（８３２）智証大師が青峰の麓へ巡錫したとき、白髪の老翁（市之瀬明神）があらわれ「ここは観世音の霊地で三谷ある。毘沙門谷に行場を、法華渓に本堂、後夜谷には法華三昧の道場をつくり、また、蓮華谷の香木（伽羅・沈香・白檀）で本尊の観世音を刻むように」と告げた。

その後智証大師は青峰に登り、老僧と出会うが、この老僧は山の守護神の山王権現であったことから、山を開くにあたり、市之瀬明神と山王権現を鎮守としてまつり、香木で観世音の尊像を刻んで先の老翁のいうごとく安置した。この香木の根の香りがあまりにも高いので寺名となり、また、香りが川に流れて香ることから「香川」の県名がつけられたともいう。智証大師が伽藍を建立後盛んになり、後白河天皇の勅願所にもなった。現存本堂への廻郎には戦後の勧進による万体観音像が奉安されている

●八十三番札所　一宮寺（いちのみやじ）　香川県高松市一宮町６０７
ご本尊＝聖観世音菩薩　　おん　あろりきゃ　そわか
メモ＝高松郊外にあり周囲が住宅化してゆく中で一宮寺は古い姿をとどめている。縁起によれば、大宝年間（７０１～３）に義渕僧正が開き、はじめは大宝院と称し､法相宗に所属していたが､諸国に一宮が建てられた時、行基菩薩が堂塔を修築し、田村神社の第一別当職となり、寺号も一宮寺に改められた。
大同年間（８０６～１０）に弘法大師が留まり聖観音像を刻んで安置し、本尊とした。後に兵火にかかり、第二別当職にあった弥勒寺と末寺は没収されたが、一宮寺は残った。しかし長曽我部元親の兵火で堂塔は灰燼に帰し、憎宥勢によって再興された。延宝７年（１６７９）には、高松城主松平頼重により田村神社の別当職を解かれ、神仏は分離するのである。現在もこの名残りをとどめ、仁王門の前は神社の境内地。本堂右に大師堂と庫裡・納経所があり、左に宝治元年（１２４７）建立の三基の石の宝塔がある。一宮御陵とよばれ、孝霊天皇百襲姫・五十狭芹彦命のものという。
●八十四番札所　屋島寺（やしまじ）　香川県高松市一宮町６０７
ご本尊＝十一面千手観世音菩薩　　おん ばさら たらま きりく
メモ＝高松郊外にあり周囲が住宅化してゆく中で一宮寺は古い姿をとどめている。縁起によれば、大宝年間（７０１～３）に義渕僧正が開き、はじめは大宝院と称し､法相宗に所属していたが､諸国に一宮が建てられた時、行基菩薩が堂塔を修築し、田村神社の第一別当職となり、寺号も一宮寺に改められた。大同年間（８０６～１０）に弘法大師が留まり、聖観音像を刻んで安置し、本尊とした。後に兵火にかかり、第二別当職にあった弥勒寺と末寺は没収されたが、一宮寺は残った。しかし長曽我部元親の兵火で堂塔は灰燼に帰し、憎宥勢によって再興された。延宝７年（１６７９）には、高松城主松平頼重により田村神社の別当職を解かれ、神仏は分離するのである。現在もこの名残りをとどめ、仁王門の前は神社の境内地。本堂右に大師堂と庫裡・納経所があり、左に宝治元年（１２４７）建立の三基の石の宝塔がある。一宮御陵とよばれ、孝霊天皇百襲姫・五十狭芹彦命のものという。

第１日目　０４月０４日（金・晴）　歩行日数＝４０日　　歩行距離＝約４．６Ｋｍ
清水町４：００－瀬戸大橋－松山ＩＣ－前回最終地・境目トンネル手前発１３：５５－民宿「岡田」前１４：５８－雲辺寺登山道入口１５：３０－民宿「岡田」１５：５０（泊）
宿＝お遍路・ドライバー６０００円、応対等全体的に良い

順調に前回最終地、境目トンネル下着。天気は良かった。ブラブラと出発。程なく

境目トンネル巻き道に入る。路傍に水仙が咲き乱れ、今まさに桜が満開だった。

境目トンネルを越えて下って行くと今日の宿、民宿「岡田」があった。ちょうど主人が外にいてしばし歓談。期待通り温かい方だった。

とりあえず雲辺寺登山道入り口まで歩を進め今日は終了。宿に向かう。私の部屋は元総理大臣だった、菅直人が宿泊した部屋だった。壁の色紙には「草志」とあった。「草志」は氏のブログのタイトルにもなっている。宿泊は、Ｈ２３年（２０１１年）１０月８日だから、丁度半年前だった。

夕食は八十歳の主人も加わり楽しかった。壁には所狭しと今まで宿泊した方の写真が飾ってあった。テレビの下には、何と「伊豆新聞」の切り抜きが貼ってあった。

岡田さん

桜満開

シンガポール隊

第２日目　０４月０５日（土・晴のち雨）　歩行日数＝４０日　　歩行距離＝約２０Ｋｍ
登山口発６：４８－六十六番札所・雲辺寺８：４３～９：３３－六十七番札所・大興寺１３：１７～１３：４９－六十八番札所・神恵院、六十九番札所・観音寺１５：５８～１６：４５－「晩翠旅館」泊１７：３０
宿＝お遍路・ドライバー５９００円、応対等全体的にまあまあ

宿の前で記念写真を撮って、岡田さんに見送られ出発。「いつまでもお元気で」と別れた。天気はまあまあ。宿は違ったが、東南アジア系の四名が前後して出発。最初から急登が始まった。しかし、山道なので気持ちは弾む。

雲辺寺まで、標高差６６５ｍを丁度２時間で上った。イイ感じだ。寺は四国八十八箇所で標高が一番高い寺。雲辺寺山は標高９２７ｍ。帰って知ったが、立派なスキーゲレンデがあった。ロープウェイで上ったＳちゃんと合流。

寺は新しく立派だった。境内に「おたのみます」（おたんこなす、ではない）という、大きな「ナス」のモチーフがあり、願い事をここでするようだ。お勤めを済ませ下山。ＳＳさんはロープウェイで下る。下山道に大きな五百羅漢像が、それは見事にズラーと並んでいた。夜、通過したらちょっと怖いだろう。

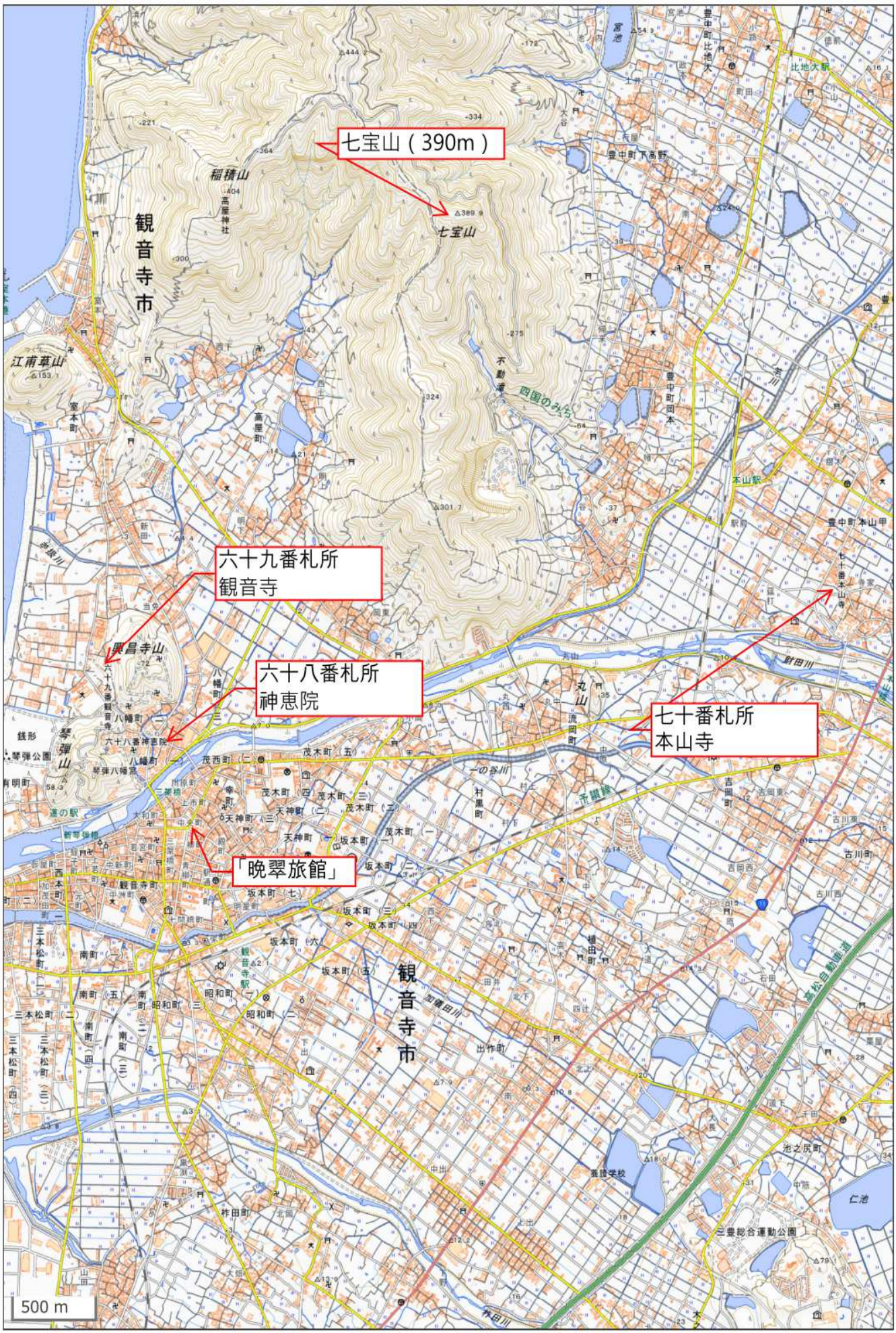
下山道も自然道で良かった。快適に下る。途中、先ほどのアジア系の方と一緒に休憩。名刺を交換したら、国はシンガポールで二組の夫婦だった。一人の男性は、シンガポール航空のパイロットだった。３週間の休暇で日本に来たという。それにしても、わざわざ「四国お遍路」をやる理由は何だろう。つたない英語では分からなかった。

山道が終わり気持ちの良い田園風景を下る。途中、麦畑があり、大きなタマネギ畑があった。これは、種を採取するタマネギとのこと。

下り切って再び上り大興寺着。大幅に昼食時間を経過し、空腹で堪らない。境内に入る前にバスの中で、民宿「岡田」のオムスビを食べた。決して豪華なものではなかったが、サイコーに美味しかった。感謝・多謝。

桜が良かった。寺を辞するころ小雨が降って来た。午後は傘をさしてのお遍路となった。先で朝から前後して歩いて来た若い女性が靴を脱いで休んでした。聞けば愛媛

地理院地図
GSI Maps



大学の学生さんで、地元の文化を研究しているそうだ。名刺を上げて先を急ぐ。
　雨の中、神恵院・観音寺着。ここは同じ境内に二つの寺がある珍しい寺だった。お勤め後、今日の宿「晩翠旅館」に向かった。

第３日目　０４月０６日（日・晴）　歩行日数＝４１日　　歩行距離＝約２５Ｋｍ
六十八番札所・神恵院、六十九番札所・観音寺発６：５８－七十番札所・本山寺７：５８～８：３４－七十一番札所・弥谷寺１２：０６～１３：００－七十二番札所・曼荼羅寺１４：１４～４１－七十三番札所・出釈迦寺１４：５～１５：２９－七十四番札所・甲山寺１６：０４～３５－七十五番札所・善通寺「いろは会館」１７：０１（泊）
宿＝お遍路６１００円、ドライバー無料、綺麗で気持ち良い宿坊

　前日最終の神恵院･観音寺から出発。天気は良かった。大きな財田川の堤防を進む。やがて左手に本山寺を象徴する五重塔が見えた。「国指定重文の仁王門」を潜って境内に入る。大きくはないが美しい本堂は国宝だった。
　お勤め後、五重塔前で記念撮影。桜が満開の池の畔を辿り、次第に傾斜が増した坂道を上れば、弥谷寺（いやだにじ）入口に着いた。丁度お昼の時間になった。「天然いやだに温泉・ふれあいパークみの」でトンカツを頂いた。ただ、缶ビールが余りに高いのに驚いた。

「おたのみなす」

六十六番札所・雲辺寺

五百羅漢

地理院地図
GSI Maps

五百羅漢

六十七番札所・大興寺

愛媛大生

六十八・九番札所
神恵院・観音寺

晩翠旅館

七十番札所・本山寺（国宝）

本山寺
五重の塔

弥谷寺は長い階段を上って行く。標高は３８２ｍ。本堂は岩を刳り貫いた中にあった。四国で初めて本堂に上がってお勤めをした。中には弘法大師・両親の像があった。

下山は長い下りで七十二番札所・曼荼羅寺に向かう。境内の桜が見事だった。寺を出た所に「うどん」のお接待があった。七十三番札所・出釈迦寺はすぐの所。今回は、兎に角寺が多くて大変。出釈迦寺の奥の院は、弘法大師が幼少のころ修行した所として有名。ずっと一緒のシンガポール隊と記念撮影。

七十四番札所・甲山寺も近い。七十五番札所・善通寺に向かう。門前町は賑やか。寺近くに「カタパン」屋号（熊岡菓子店）の店があった。カタパンは、パンを硬く焼いたものだった。大丸パンが一枚３００円、小丸パンが一枚１５０円。Ｙさんが小丸パンを買ったので、頂いたがまあまあだった。

善通寺は弘法大師誕生の地で四国八十八箇所一番の寺。境内は物凄く大きかった。高く立派な五重塔が佇立し、巨大な楠が枝を広げていた。スケールが違い過ぎる。今日は寺の宿坊「いろは会館」に泊まる。新しく綺麗な宿坊だが、宿泊費は安い。ただ料理は例によって精進料理だから、ちょっと辛い。お風呂はアルカリ温泉で良かった。

第４日目　０４月０７日（月・晴）　歩行日数＝４２日　　歩行距離＝約１８．７Ｋｍ
起床―お勤め６：００～４５－朝食－出発７：４２－七十六番札所・金倉寺８：３５～９：１０－お地蔵さんお接待１０：０９－七十七番札所・道隆寺１０：

１３～３７－昼食「寿美屋」１１：２０～１２：１６－七十八番札所・郷照寺１４：０１～２７－お接待足湯１５：５７－七十九番札所・高照院（天皇寺）１６：２４～４５－みき旅館１７：００（泊）
宿＝お遍路・ドライバー５２５０円、小さいがまあまあ。

起床し早朝、御影堂(大師堂)でお勤め。椅子だから楽だった。お話は住職が不在でＮＯ．２の方が行った。僧侶は全部で１５名くらい。一段上に上がれるのは偉い方。平は下の板の間だった。上段組に女性が一名いた。

御影堂の入り口が既に開け放たれていて、４月とはいえ、寒気がガンガンでモーレツに寒かった。空海が使われたという「錫杖でお加持」をしてくれた。何もかも壮大で、流石に本山を感じさせた。立派な寺に宿泊して良かった。

朝食後、お遍路開始。今日も天気はイイ。通りを東に進むと、大きな「赤門筋」という、一種の山門があった。昔はこの辺りまで、寺の土地だっただろうか。通りで自転車お遍路さんに遭遇。

程なく七十六番札所・金倉寺着。山門は桜が満開だった。本堂には大きな数珠が下がり、グルグルと回す。境内に大きな大判があり、寺名の如く「金運」があるという。

七十一番札所・弥谷寺

七十二番札所
曼荼羅寺

地理院地図
GSI Maps

七十三番札所
出釈迦寺

七十四番札所・甲山寺

七十五番札所・善通寺

善通寺
大楠

赤門筋

七十六番札所・金倉寺

大判

お接待・お地蔵さま

七十七番札所・道隆寺

グッズ店

七十七番・道隆寺に向かう途中、民家の前でオジサンに声を掛けられた。見れば手に可愛いお地蔵さんを持っている。道行くお遍路さんに、「安全祈願・満願成就」を願って手渡している。私たちも全員有難く頂いた。奇特な方がいるものだ。

やがて道隆寺着。大きな寺だった。外人の女性に会った。一緒に男性もいたが、夫婦か親子か不明。お勤め後、寺入口のグッズ店を冷やかす。私は拍子木を購入。主人は気さくな方で、記念撮影に収まった。

七十八番札所・郷照寺に向かう。１１時を回ったので、時間的に昼食だ。Ｒ３３の脇道を行くと食堂があった。表に回ってみると、何と「道隆寺指定店・寿美屋」だった。うどんが主な店だったが、いろいろリクエストにも応じてくれた。

午後の出発。しばらく行くと頭上にお城が見えた。「丸亀城」だった。地図を見ると立派なお堀もあった。１時間ほどで郷照寺着。大きな寺ではなかった。納経は若い女性がやってくれた。

記念撮影後、今日最後の七十九番札所・高照寺（または院・天皇寺）向かう。疲れた足を引きずって歩く。フッと見ると、そこには何と足湯があった・・・。

・・・・・歩き遍路の休憩所として利用してもらう「ヘンロ小屋」が香川県坂出市江尻町のガス生活館ピポット坂出に整備され、２５日に関係者や地元の児童ら約１００人が集まり落成式が行われた。

建築家の歌一洋・近畿大教授が、２００１年にスタートさせた「四国八十八箇所ヘンロ小屋プロジェクト」の一環。場所は四国霊場、七十八番札所・郷照寺（宇多津町）から七十九番札所・高照院（天皇寺・坂出市西庄町）に至る遍路道沿い。県内では６棟目で、四国では４６棟目。ヘンロ小屋は、お遍路さんらに使ってもらう足湯がある。ピポット坂出の協力を得て実現。遍路笠などをイメージした屋根を設置、金山小児童が地元の「悪魚退治伝説」をイメージして描いた板絵も楽しむことが出来る。

地理院地図
GSI Maps

地理院地図

GSI Maps

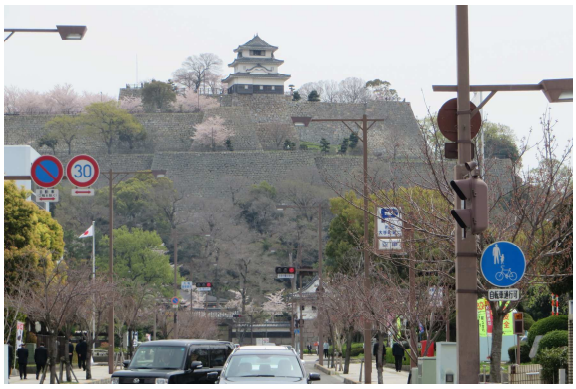
同プロジェクトを支援する会香川支部の亀山啓司支部長は「足湯があるヘンロ小屋は四国で初めて。ゆっくり疲れを癒やしてほしい」と話している・・・ネット

で、気持ち良く使わせて頂いた。ようやく高照寺着。寺入り口の大きな石碑には、「天皇寺」と彫られていた。最初、ここが高照寺か分からなかった。大きな寺ではなかったが、白峰宮という神社が一緒だった。従って寺入口に赤い大きな鳥居があった。今日はここでお終い。宿の「みき旅館」に向かった。

第５日目　０４月０８日（火・晴）　歩行日数＝４３日　　歩行距離＝約２４Ｋｍ
七十九番札所・高照院（天皇寺）発７：１６－八十番札所・国分寺８：４３－八十一番札所・白峯寺（昼食）１１：５８～１３：０４－八十二番札所・根香寺１４：４８－百百屋旅館（泊）１７：０８
宿＝百百屋旅館・６０００円、先達・ドライバー＝４０００円

ＪＲ予讃線が通勤客を乗せて通過。綾川の「みき旅館」は小さい旅館だった。ころころした可愛らしい女将が一人で切り盛していた。アットホームでまあまあだった。朝、女将に見送られバスで高照院（天皇寺）に戻る。

寿実屋



丸亀城

七十八番札所
郷照寺

地理院地図
GSI Maps

七十九番札所・高照院

足湯

堤防を歩く。お接待休憩場があり主人と話す。河原には珍しく「ヤギ」が２頭いた。Ｓちゃんが、お腹の緊急事態発生で平行して走るＲ３３のガソリンスタンドに急ぐ。

国分寺は小高い丘の上で、ダラダラと上って行く。朝一番で大汗を掻いた。

国分寺は坂を上り切った左手にあった。大きな寺ではなかった。田舎道を辿り八十一番札所・白峯寺に向かう。道を尋ねたらホテルの角を曲がる。で行って見たら、ホテルはラブホで驚いた。こんな田舎でお客はいるのだろうか・・・。(笑い)

角の先は畑が広がっていた。柔らかい春の陽光の中、畑仕事のオジ・オバさんがいた。作っている野菜は見たことがないものだった。写真は撮ったが名前は失念。何でも・・・のような根っこを食べるで、とても美味しいそうだ。

道は山に向かって行く。山桜が綺麗なジグザグの道だった。途中に立派な東屋があった。看板があり、「歴史と文化が出逢うまち　さぬき国分寺町」と書いてあった。ただ、先ほどから大型ヘリコプターが行ったり来たりで五月蠅くて仕方がない。後で確かめたところ、近くに自衛隊基地があり、訓練飛行をしているとのこと。エライ迷惑な騒音である。

農免道路に出たら、寺まで道路ルートと山道ルートがあった。標識には両者の距離はさほど変わらないような表現だったので、山道ルートを選んだが、実はこの道は１．５倍くらい長かった。

結構長い山道を上ったり下ったりで、ようやく白峯寺着。既にお昼も過ぎ腹が減った。ご朱印係りは若い男性だったが、「ブスッ」で感じが悪かった。お昼は寺手前の駐車場で頂いた。炎天下で暑かった。

午後は来た道を半分戻り、八十二番札所・根香寺に進む。寺は標高約３６５ｍで結構高い。単独歩きの男性の方に携帯を貸してやった。大分、疲れた様子だった。

舗装道路の急坂を下り今日の宿「百百家旅館」に行く。辺りは、松の盆栽苗木作りが盛んの様で、畑は松でイッパイだった。下り切った所は、JR 予讃線の「鬼無（きなし）」駅。駅名板にカッコ書きで（鬼無桃太郎）とあった。駅に陸橋が架かり、向こう側に行けるようになっていた。これは有難い。

宿は直ぐだった。宿にはビア自販機がなく、近くに販売店がなく、Ｇドライバーに頼んでバスで買に行った。夕食は大広間で良かった。

みき旅館女将

八十番札所・国分寺

？？？野菜

さくら遍路道

八十一番札所・白峯寺

八十二番札所
根香寺

第６日目　０４月０９日（水・晴）　歩行日数＝４４日　　距離＝約２６Ｋｍ
百百家旅館発６：５５－八十三番札所・一宮寺８：４４－八十四番札所・
屋島寺１４：４６－屋島古戦場近く１５：５０－庵治観光ホテル「海のやどり」
１６：４５（泊）

お遍路最終日。今日も天気は良い。百百家旅館から八十三番札所・一宮寺に向かって歩く。途中、立派過ぎる無料の遍路宿があったが、早朝で閉まっていた。２時間弱で寺着。それ程大きな寺ではなかった。今回最後の八十四番札所・屋島寺に進む。高松市内を通るので道が複雑で分かり難い。遺跡発掘の方に道を聞いた。屋島寺は標高約２３０ｍあるので、案外目立ち右手の山を目指せば辿りつく感じだった。

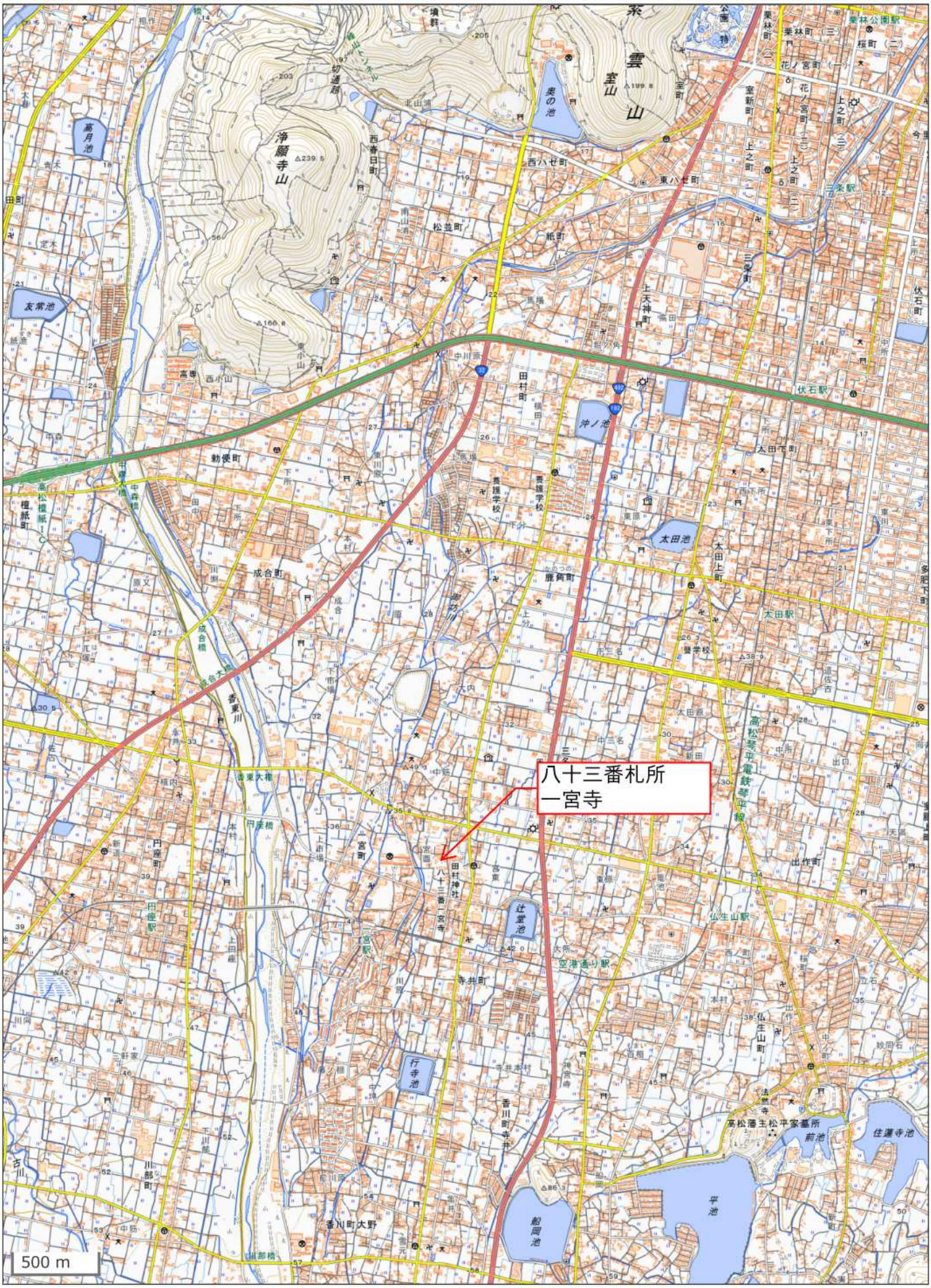
途中、昼時間になったので、「大渚亭」で昼食を摂った。なかなか、洒落た店だった。Ｓちゃんとドライバーは合流できず別々に頂いた。

午後は市内を通過し、屋島に取り付き、西側にある山道を辿る。下から仰ぐと南に岩壁を持った軍艦のような山だった。屋島の最高峰は、２９２ｍだが、ちょっと厳しい上りだった。帰って気が付いたが、山には何故か水族館があった。こんな山上に水族館？？って感じ。

屋島寺は大きく立派な寺だった。本堂の脇には、数珠を持った大きくユーモラスな「タヌキ親子石像」があった。可愛い雄のシンボルもちゃんとあり笑ってしまった。

地理院地図

GSI Maps



地理院地図

GSI Maps

標高があるので展望は良かった。さぬき市と志度湾が見渡せ、次回上る八十五番札所・八栗寺が対岸にあった。

東側の山道を下り、古戦場の壇ノ浦に着いた。今回のお遍路はここで終了。宿の「海のやどり」に向かった。

第７日目　０４月１０日（木・晴）　歩行なし

起床６：００ー宿発８：００ー長泉町１８：００ころ

「海のやどり」は、なかなかよい宿だった。食堂からテラスに出ると眼下に瀬戸内海が広がり、大島・兜島・稲毛島が見えた。岬と島の間をタンカーが行き来していた。大島は人が住み郵便局もあるようだ。

夕食時は、台湾だか中国の旅行者大勢が「くじ当てゲーム」みたいので大騒ぎしていた。周りの事は気にせず、全く賑やかである。

朝は宿の方に見送られ帰静。今回も無事終わって良かった。さて、次回でいよいよ、結願である。長いようようで短い旅だった。合掌。

八十三番札所
一宮寺

八十四番札所
屋島寺

タヌキの親子

屋島寺から
さぬき市俯瞰

「海のやどり」

夕食風景

切り抜き帳

台蜜・・・（たいみつ）とは、天台宗に伝わる密教のこと。京都東寺を根本道場とした真言密教を東密と呼ぶのに対する呼称であり、日本天台宗の開祖である最澄（伝教大師）によって創始されたものである。

八百屋お七・・・（やおやおしち、寛文 8 年〈1668 年〉～天和 3 年 3 月 28 日〈1683 年 4 月 24 日〉、生年・命日に関して諸説ある）は、江戸時代前期、江戸本郷の八百屋の娘で、恋人に会いたい一心で放火事件を起こし火刑に処されたとされる少女である。井原西鶴の『好色五人女』に取り上げられたことで広く知られるようになり、文学や歌舞伎、文楽など芸能において多様な趣向の凝らされた諸作品の主人公になっている。

護摩堂・・・真言宗などの寺院で、護摩をたき修法を行うための仏堂。本尊は不動明王か愛染明王。

一生成仏・・・信心の根本的な目的は、私たち自身が仏の境涯を得ること。御本尊を信受して純真に自行化他の実践に励むなら、どのような人でも必ず一生のうちに成仏の境涯を得ることがで出来る。これを「一生成仏」という。

舎利・・・釈迦牟尼（むに・釈迦、ゴータマ・シッダッタ）の遺骨。 仏舎利を参照。 仏舎利が転じて遺骨のこと。 寿司飯や飯（寿司用語のシャリ）のこと。 能の演目。五番目物の打合物。舎利（能）を参照。

大師堂・・・日本における仏堂の呼称の 1 つで、大師号を贈られた僧を礼拝の対象として祀るものである。全国の「大師堂」と称する仏堂は、真言宗の開祖・空海（弘法大師）を祀る堂が真言宗系寺院に多く存在し真言宗以外の寺院では円珍（智証大師）、良源（慈恵大師、元三大師）を祀る堂を「大師堂」と称するものもある。

丸亀城・・・讃岐国、現在の香川県丸亀市にある城。別名、亀山城、蓬莱城（ほうらいじょう）ともいう。丸亀市街地の南部に位置する亀山（標高 66 メートル）を利用し、縄張りはほぼ四角形で亀山の廻りを堀（内堀）で囲む、渦郭式の平山城である。

鬼無桃太郎・・・香川県には桃太郎の伝説が残っている。地方開拓のため香川を訪れた桃太郎は、住人が鬼に苦しめられている事を知り、家来と共に鬼退治に向かう。鬼ヶ島（女木島）に向かい、鬼との戦いに勝利した。しかし桃太郎が引き上げた後、鬼が香川本土に逆上陸して攻めてきた。桃太郎達は鬼を迎え撃ち全滅させた。そして鬼がいなくなった。その土地は鬼無と呼ばれた。

屋島水族館・・・高松市屋島東町にある水族館。標高約 300m の屋島山上にある日本でも珍しい水族館である。

善通寺駐屯地・・・香川県善通寺市南町二丁目 1 番 1 号に所在し、第 14 旅団司令部等が駐屯する陸上自衛隊の駐屯地。